

追懐

村山 砂由美

社宅の庭の垣根には

数多の虫が訪れ

梨や苺や柿が生り

近所の子どもが集まって

小さな住処であることを忘れさせた

母の手作りの

人參ジュースに

舌鼓を打って

豊頬をさらに膨らませていた頃の

淡い記憶は

何層も重なり合い

虹色の夢を織りなし

錆びついて軋むブランコを

思いつきり漕ぐように

揺れて空へ向かった

運動会

鈴鹿音頭が運動場いっぱい広がって

赤帽白帽も輪になって

手は斜めに右左

歩みを揃えて

休み時間は

逆上がりや連続回り

鬼ごっこに

ゴム跳び

ケンパ

家路を急いで

やわらかな幻想の地平線で迷子になり

いつの間にか

焦げて穴の空いたズボンを穿いた

父の胡坐の中に座っていた

「ただいま」

幻影を辿って

あの日に帰った